

手記

三池労働組が毎年取り組んでいる「退職記念東京旅行」は、毎回数々のエピソードとドラマを生み、旅行参加者を感激させてきた。九月二十七日から十月三日にかけて行われたこの旅行も、同じように多くの感動を呼び起こして終わった。旅行参加者の一人、嘉悦スミ子さんの次の手記は、読む人びとの胸に、その感激をきくと語り伝えてくれることだろう。

待ちに待った、退職記念東京旅行。

総勢五十人余り。旅は、まるで夢のようでした。

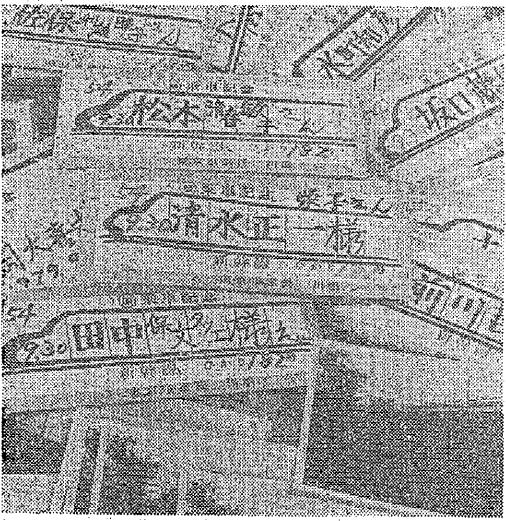
再会にまず涙

大阪南港に着いてまず感激したことは、大阪総評の方達が出迎えて下さり、そして大きい荷物、ホテルまで届けるのをひき受けて下さったことでした。おかげで私達は体ひとつで、大阪―奈良―京都と見物することができました。

二十九日(九月二十七日)の出発の日から二日目の夜は、関西不知火会(三池退職者の組織)の皆さんとの交流。なつかしい顔ばかりに涙が先で、何から話してよいやら。ほんとうに、こんなにも盛大な、心からの歓迎にはただただ頭が下がるばかりでした。

車掌長の厚意

三十日は、超特急「ひかり」百八十二号で、一路めざす東京指定席に落ち着いて、間もな



新幹線の車掌さんから、さつそく送っていただいた記念乗車券など。

別項の嘉悦さんの手記に、旅行途中の新幹線「ひかり号」のなかで、「彼岸花の写真と記念の乗車券をお送りします」と約束して下さった、車掌長の川添徳之祐さん(前号に徳之祐さんとしたのは誤り)のことがありますが、お約束の通り川添さん

新幹線車掌長さんから

約束の品とどく

「皆様様の思い出多き東京一日光めぐりの旅は如何でございましたか。十月一日は青空快晴にて、日光は良かったのではないのでしょうか。」

「皆様の思い出多き東京一日光めぐりの旅は如何でございましたか。十月一日は青空快晴にて、日光は良かったのではないのでしょうか。」

「皆様の思い出多き東京一日光めぐりの旅は如何でございましたか。十月一日は青空快晴にて、日光は良かったのではないのでしょうか。」

「皆様の思い出多き東京一日光めぐりの旅は如何でございましたか。十月一日は青空快晴にて、日光は良かったのではないのでしょうか。」

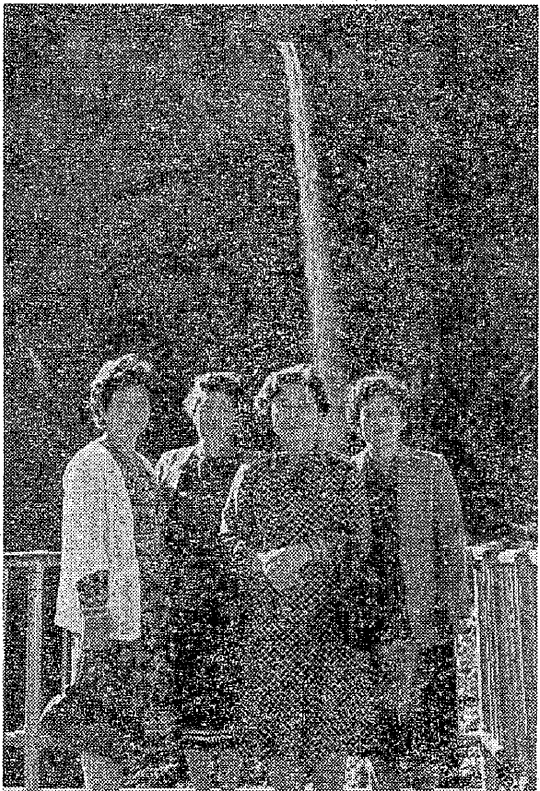
「皆様の思い出多き東京一日光めぐりの旅は如何でございましたか。十月一日は青空快晴にて、日光は良かったのではないのでしょうか。」

「皆様の思い出多き東京一日光めぐりの旅は如何でございましたか。十月一日は青空快晴にて、日光は良かったのではないのでしょうか。」

歌った炭掘る仲間

退職者旅行に忘れぬ思い出が……

退職者主婦 嘉悦 スミ子



華厳ノ滝を背に左から、佐保ムツ子さん、清水栄子さん、嘉悦スミ子さん(筆者)、井手口ハル子さんの四人づれ。

るなんて……。改めて、国鉄を見直したい気持ちでした。

思い出が一つ

あまりのうれしさに、松岡さん(本所指導部、勤務者旅行会の活動家)が石炭人形を贈りまして、川添さんもおほのうれし

最後は日光へ

東京に着くと、こんどは東京地評の人達が待っていて、荷物をホテルまで送って下さいまし

忘れ得ぬ人々

こうして、退職記念東京旅行は終りましたが、車掌長の川添さんはじめ、関西・関西の面

炭労、秋闘を終る

経営側「赤字で経営危機」と

炭労の秋闘争は終わった。十月二十九日夜、経営者側から示された回答で、ストライキ突入を前に、妥結することをきめたのである。

秋闘要求は、退職金制度の改善を柱に、救済手当やじん肺せき損補償の増額だったが、いずれもほとんど見るべき回答を獲得することができずに終わった。(くわしくは別の機会に譲る)

三池闘争20年

記念行事 関西不知火会が……

経営者側のいい方は、「現在炭鉱は赤字経営のため、危機的状況に立ちいらっている。だから、とくに退職金制度など、現行を維持することさえ困難だ」ということ

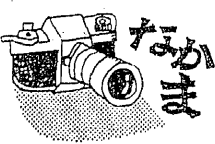
三池闘争の記念品を展示し、同時に記録映画「三池のたたかい」の上映など計画している。

現実、今が国の石炭産業を

すでに実行委員会も誕生、呼び

三川指導部

田中繁満さん



十七年に入社した時は、大規模な大規模化されたが……

上りエヒと筋に歩いてきた。その間圧搾機(圧縮空気をつくる)タービン(坑内水の排水機)、ホーリング(巻揚げ機)

今、坑外で使っている圧搾機も、六台のうち三台は彼が設置した。だから、目にするたびに感無量だと彼。

52歳。48歳の妻のアヤ子さんとの間に男の子1人。それに加えて、大牟田市の宮山町49番地の自宅で